

# 湯山地区

人口:8,471人(高齢化率34.5%)  
世帯数:4,072世帯

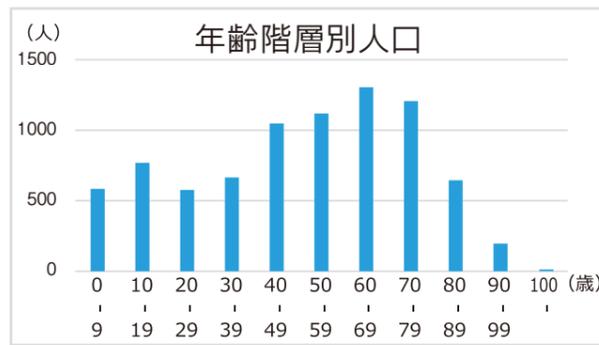


## 【地区の特色】

湯山地区は、松山市街東部・石手川の流域に位置し、以前はのどかな農山村であったが急速な宅地造成が進んでいる。また、石手川ダム上流の国道317号線沿いに位置する日浦地区は、近年は過疎化、高齢化が進んでいるが、石積みの棚田や彼岸花の自生する自然景観の美しい地域であり、地域全体が一丸となって、ほたるの里づくりなど水源保全地区ならではの活動を続けている。



夏まつり



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事等の参加者が多い ・地域がまとまりやすい</li> <li>・顔を見るだけで誰かわかる関係ができています</li> <li>・自然がいっぱい ・たけのこがおいしい</li> <li>・市内中心部まで近い ・生活がしやすい</li> <li>・家賃が安い ・出会い(伝統的な近隣の助け合いのしくみ)がある</li> <li>・農地が宅地になり地区によっては若い世代が増えている</li> <li>・ダム周りの整備がされている</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老老介護人口が増えている ・子どもが減っている</li> <li>・個人情報の問題があり、家庭に入りにくい</li> <li>・交通が不便である ・バスの便が少ない ・バス停までが遠い</li> <li>・空き家、空き地が増えている ・坂道が多く、高齢者にはしんどい</li> <li>・人を集めるのが大変 ・獣被害 ・出会いの活動が年約10回と少なくなった</li> <li>・地区(湯山と日浦)によって差がある ・竹林放置 ・田んぼダムが無くなっている</li> </ul>
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者が増え、高齢化率が進んでいる</li> <li>・70歳以下の人が少ない(日浦地区)</li> <li>・公共交通機関が少ない(バスの便が少ない) ・運転免許がないと生活できない</li> <li>・地域によっては、生活関連施設や医療、福祉関連施設がない</li> <li>・防災に関する不安(避難所に行くまでの不安、避難所の耐震性が不安)</li> <li>・児童館や高齢者の集いの場がない</li> <li>・地域を守ろうとする意識が低い</li> </ul>

## 湯山地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・支所・地区連絡協議会・日浦区長連合会・まちづくり協議会
主な取り組み	活動内容
高齢者見守り活動	独居高齢者に手作り弁当の配布や寝たきり及び認知症の方のお宅を訪問しお見舞金を渡すなど、地区民協と協力し見守り活動を行っています。
世代間交流	小百合保育園の園児と地域の高齢者が、歌や工作を一緒に楽しむなどし、交流を深めています。
健康講座	健康維持に関する話を聞くとともに、活動を通して地域の絆が深まり、住みやすい地域づくりの推進になるよう開催しています。

### 夏休み将棋教室(8月)

地域の将棋名人が湯山児童クラブの子どもたちに毎年夏休みを利用して将棋を教えています。ここで将棋を学ぶ子や年々腕を上げる子も多く、対局を楽しみにしています。将棋教室を通じて世代間の交流が深まっています。



### <地区社協が目指すもの>

湯山地区は、松山市の水瓶となる石手川ダムがある地区で、石手川の流域に集落が点在するのどかな農山村地域です。道後に隣接する地域では宅地造成等が進み、人口増加の傾向にありますが、石手川ダム上流の日浦地区では特に少子高齢化や過疎化が進んでいます。

湯山地区では、地域住民の交流が図れるふれあい・いきいきサロン等を通じて、誰もが安全で安心して暮らせる地域・環境づくりを目指しています。また、災害時の救援活動として行政や諸関係機関・団体等と連携し、要支援者等の把握にも努めています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	15名 2名	■町内会・自治会・区長会等 ■高齢クラブ ■子ども会	43団体 3クラブ 6団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	40組織

他の地区と比べ、自主防災組織の組織数が多く地域内で「互いの顔がわかる関係」が構築され地区住民の凝集性が高い地区です。少子高齢化が課題となりつつも、高齢者見守り活動や保育園での世代間交流、大人と子どもの交流の場となる夏休み将棋教室など多様な世代が関わる活動が盛んに取り組まれています。結果、人間関係が豊かであるという地区の強みに繋がっているといえるでしょう。宅地が増えて若い世代が入ってくるなどの変化はありますが、地区の強みを生かして新しい住民と既存の強みをつなげ、さらに発展することを期待します。



